ナチュラルフィールド 安心院

Ajimu

農村民泊、お泊まり紀行

文＝小坂章子

初めての安心院 素朴なぬくもり。

歌うような鳥のさえずり、そよぐ風。安心院の旅は、町に点在する鏝絵（こてえ）探しから始まった。室町から江戸初期にかけて始まったとされる鏝絵は、左官が余った漆喰を用いて、家族繁栄を願い、壁面や屋根の軒下などに描いた立体アート。重松邸の富士山は、淡い墨色と白のコントラストで旅人をあったかく包み込んでくれるようだ。また迫力ある招き猫の鏝絵は、セメントながら御年100歳。真面目なんだか、ふざけてるんだか、ともかくユニークなことこの上ない。

鏝絵を楽しんだ後は、日本の滝百選の「東椎屋の滝」へ。霧雨のマイナスイオンに身をゆだねる。

さて昨日、安心院関連のサイトを覗いていたら、「Vital Force」というエステティックサロンを発見した。オーナーの佐野亜也加さんは、完全予約制で施術を行うという。気がつけば、そろそろ時間、楽しみだなあ。

亜也加さんと夫の裕一さんのお宅は、戦後生まれの平屋の一軒家。田舎暮らしを決意したふたりが旅したアメリカのオレゴン州で、偶然に出会った日本人がなんと安心院出身の人だった…。「いい場所よ」という言葉につられドライブがてら遊びに行ったところ、トントン拍子に家が見つかり移住を決めたというから、人生って面白い。「安心院なら思いきり子育てができると思ったんです」と話す亜也加さん。待望の赤ちゃんの訪れは、今年の10月だ。

自然の力で体の芯から癒されました。

大手サロンで店長まで勤めた亜也加さん。「人を癒す前に自分が辛くなって。より自然に近い場所でやっていきたいと思ったんです」。

満ちたりた笑顔でそう語る彼女に導かれ、早速ベッドに横たわる。リンパドレナージュとオステオパシーを組み合わせて、アレンジしたエステでは、柚子の種の美容液、カレンデュラのオイル、ドクダミの化粧水などナチュラルな手作りコスメが主役。頬をなでるなめらかな指先に早くも熟睡してしまう。

「植物の力に感謝ですね。食養で内側からも美しくなっていただけたら嬉しいです」。ハーブティでリフレッシュした後は、さあ特製のランチが待ってるぞ。

通りすがりの土壁の家で見つけた美しい鏝絵。色づかいは、時代を経て淡くやさしくなる

道中で発見したレトロ看板の群れに大興奮。金鳥、オロナイン…、ああ、郷愁をそそる

「日常が非日常になる、それが農村民泊」と教えてくれたオーナーがいる。湯布院や別府からほど近い安心院と聞いて思いうかべるのは、おいしい水と手つかずの自然、野菜、すっぽん、ワイン、鏝絵、グリーンツーリズム…。そこには、自然を敬い、共存する人の暮らしが息づいていた。ナチュラルなエステ体験や農村民泊体験から学んだのは、そんな当たり前のこと。この町がもっと大好きになった、一泊二日の安心院旅行。

花のエネルギーを転写したフラワーエッセンス。自分と向き合い、心を癒してくれる

庭から摘んできたピンク色のマロウとカモミールを陰干し。自然の色彩に元気をいただく

「エステのお客様には食の大切さを伝えるために、ランチ（1500円）を提供しています」

小坂章子／旅、暮らし、工芸などを取材するフリーライター。福岡県福岡市在住。著書に『九州喫茶散歩』（書肆侃侃房）など